

組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume
14
Number
20

2026年9月10日



2025年10月28-29 ワークショップ「Color Change Oimatsu (色変わり老松)」 Adrienne Gaskell

目次 Contents

役員・顧問紹介 - 活動、取り組みの報告	濱中知子 ほか	2
正確なクテ打ち操作のための3つの工夫	北原文代	8
組紐・組物学会ワークショップ		9
組紐・組物学会会告		10

In this issue

Board Members - Activity Reports	H.Tomoko, H.Tokusaburo, N.Shohei and U.Tadashi	2
Three Tips for Accurate Kute Manipulation	Fumiyo Kitahara	8
Review of the Workshops in FY2025		9
Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society		10

組紐・組物学会ニュースレター

第14巻 通算20号 2026年9月10日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

大谷研究室 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL: (075)724-7905 E-mail: miyakoinoda1@gmail.com

本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。



役員・顧問紹介

活動、取り組みの報告

会長 濱中知子
顧問 廣澤徳三郎
理事 能勢将平、魚住忠司

(写真1) チンアナゴ作品

NPO 法人こども手づくりプロジェクトについて

ハマナカ株式会社 代表取締役 CEO 濱中知子（組紐・組物学会会長）
NPO 法人こども手づくりプロジェクト事務局長 黒田佐織

NPO 法人こども手づくりプロジェクトは、こどもたちに手芸を主としたものづくり体験と発表の場を提供し、こどもたちの発想力・創造力・表現力の向上を目指すことを目的として、2013年12月より京都市の認可を受け活動しています。一日で4～6種類のバラエティー豊かな手づくりコンテンツを体験できる主催イベント「夏休み☆手づくり縁日」と、プロジェクトの活動拠点（京都市上京区）近隣の小学生を主な対象とした「放課後ワークショップ・手づくり寺子屋」の参加者数に、他都市・他団体主催の手づくり関連イベント参加時の体験者数を加えた合計人数として、これまでにのべ4287名のこどもたちが手づくりに取り組みました。そのなかで、組紐は定番コンテンツのひとつとして、ワークショップに欠かせない存在となっています。

こども手づくりプロジェクトでは、多田牧子先生デザインの「組紐ディスク」・「組紐プレート」・「ミサンガディスク」に、初めて組紐にチャレンジするこどもたちにも扱いやすい糸「ハマナカボニー」を主に組み合わせ使用しています。ワーク時間に限りのある「手づくり縁日」やそのほか手づくりイベントでは、ミサンガディスクとハマナカボニーで組む8Zスパイ

ラルを取り入れています。大きめビーズで輪の結び目を飾って仕上げるプレスレットはこどもたちにもすっきりお馴染みで、お父さんお母さんにプレゼントするために頑張って長く組んだりもします。組みながら中心にアルミワイヤーの芯を入れて作るマスコットも人気で、2025年の巳年にちなんだへびや「夏休み☆手づくり縁日」のメニューに登場した水族館のアイドル・チンアナゴ&ニシキアナゴに、こどもたちの目が輝いていました。

小学一年生から六年生までのこどもたちが放課後と土曜に通ってくる「手づくり寺子屋」では、定番の8Zスパイラルはもちろんのこと、さらにくわしく学ぼうとするこどもたちが細い綿糸やレーヨン糸を使ってみたり、教科書（多田先生著「いちばんやさしい！組むも」ほか）を見ながら十六金剛ねじり組や笹波組に何週間・何ヶ月もかけてチャレンジしたりと、じっくり組紐と向き合っています。

2016年には、くみひも☆スペシャルとして特別講師に多田先生をお招きするという、何とも贅沢で貴重な機会もいただきました！

（2016年3月実施・http://blog.livedoor.jp/handc_jp/archives/47805212.html）

こども手づくりプロジェクトではさまざまな素材と技法をこどもたちに馴染みやすいスタイルにアレンジし、チャレンジ心にうまく響くよう工夫を心がけていますが、粘土やフェルトといった直感的にアイデアを形にできる素材のワークに比べると「編む・組む・織る」については作品完成まである程度の根気づよさと集中力がこどもたちに求められると言えます。

動画サイトなどを見ながら「サクッと」「それなりの」作品が完成することに慣れつつある昨今のこどもたちに向けて、ものづくりの基礎の大切さ・美しい仕上がりに必要な根気と丁寧さといった、難しい部分を体感として伝えることのできる組紐ワークは大変貴重なコンテンツとなっています。今後もこどもたちの自由な発想と創造性を尊重しながら、あきらめず投げ出さず身につけた技術が運んでくれる達成感や感動も決して忘れることのないよう、より豊かなものづくり体験を届けていきたいと思っています。

<参考>

手づくりワークショップ事業におけるのべ参加人数
2014年度 617名（うち「手づくり縁日」200名／外部イベント189名）

2015年度 407名（90名／226名）
2016年度 506名（222名／100名）
2017年度 736名（200名／64名）
2018年度 399名（113名／30名）
2019年度 364名（185名／64名）
2020年度 145名
2021年度 144名
2023年度 334名
2024年度 256名（84名／外部イベント参加なし）
2025年度 255名（71名／外部イベント参加なし）

<外部イベント>

2014～2019年10月 広島手づくりフェア
2015年12月 大津市ほくぶん子どもまつり
2018年3月 きょうと地域力アップおうえんフェア



特定非営利活動法人
No for Profit Organisation
こども手づくりプロジェクト

2018年3月4日「きょうと地域力アップおうえんフェア」
くみひもプレスレットづくり

(写真2) こども手づくりプロジェクト

NPO 法人こども手づくりプロジェクト

<https://npo-handc.jp>（これまでのワークショップの様子を各SNSでご覧いただけます）

facebook ▶ <https://www.facebook.com/npo.handc>

X ▶ https://x.com/npo_handc

instagram ▶ https://www.instagram.com/npo_handc/

伊賀組紐の生い立ちと伝承

伊賀組紐元祖 3代目廣澤徳三郎（顧問）

初めに私の住む伊賀地域を紹介します。
三重県伊賀市です。三重県と言えば代表されるのが伊勢神宮です。日本古来の神様として国民に慕われています。昨今、神宮様は第63回式年遷宮に向けて諸行事を開催されています。伊賀市は、その三重県の中西部に位置し、奈良県・京都府・滋賀県に隣接する四方山に囲まれた伊賀盆地であります。盆地特有の昼夜の寒暖が大きく、水が豊富で自然が残された街です。食文化は、米、野菜、酒、肉など、上質です。特に伊賀米は全国で特A取得、伊賀酒は伊勢志摩サミットで乾杯酒として使われるほど銘酒で、伊賀肉は松阪肉に劣らない食味で知られています。観光では、俳人松尾芭蕉翁の生誕地として知られ、伊賀流忍者の発祥地として全国に名声をあげています。又、伝統的工芸品としては、伊賀組紐・伊賀焼の2産地が国指定を受け脈々と受け継がれています。

自然と豊富な食材、歴史ある史跡、伝統技術の生かされた町で伊賀組紐が根付きました。

伊賀組紐の始まりは、徳川時代に遡ります。伊賀に伝わる文献で組紐の標本として曾我友生堂旧蔵の「伊賀緒紐鑑」に残されています。当時の組紐は、主として武具装具類の細工職人とともに打ち紐師、下級武士といった人々によって自給自足的に作られ、組紐技術の多くは当時江戸詰め武士によって伊賀に伝えられてきたと言われています。忍術の貴重な文献「万川集海」に下げ緒の紐や武具として組紐が使われていたと印されています。

その後、明治維新の廃刀令により武家政治社会の崩壊による武具、装具類への不要化などの要素が重なり、打ち紐師や工人は職能を失い変革する社会情勢への対応が困難となり組紐の伝統技術は衰退していきました。

伊賀地域に帯締めとして組紐が根付いたのは、明治26年、初代廣澤徳三郎が東京都小石川区上富坂町の小林栄之助組紐店に9年間住み込み、年季奉公を済ませ、店主の許しを得て独立を決意、明治35年5月、徳三郎当時24歳で江戸組紐の技術を持ち帰り、郷里（旧上野市）に組紐工場を開設、高台で組まれた帯締め・羽織紐の製造を始めたのが原点です。ここまで来るのに大変な道のりであった苦労話を二代目徳三郎に聞きました。何も知らない東京で、鍋釜を製造していた同郷人（旧上野市上林）の会社に弟子入りしたが馴れない仕事で路頭に迷っていた時、偶々通りかかった人力車を生業とする同郷人と遭遇、その方の世話で小林商店を紹介された事が組紐との出会いであると聞かされました。このような出会いが徳三郎の人生を変える出来事になったと思います。

この組紐が伊賀に根付き現在の産地として発展したのか。伊賀には他に見るべき産業はなく美しい絹糸を使った組紐に人気が集中しました。

伊賀地域は盆地のため閉鎖的で豊富な労働力があり、農家経済で農閑期の仕事として重宝されました。伊賀の人は手が器用で安い賃金で内職の組子として使えました。

商圏が京都・奈良・大阪と鉄道の発達で利便性が良かったこ



（写真4）高台亀甲組

と。高価で容積が小さく輸送の負担が少なかったこと。この様な地域性もあり産地として発展してきたと思います。

大正時代に入り徳三郎の弟子が次々と独立開業し、その後は拡散業者が増え伊賀組紐の隆盛の要因となりました。中でも大正12年の関東大震災により関東方面で作られていた帯締め等の生産が止まり、その影響で伊賀の生産が増大した事も要因の一つであろうと思われます。

大正末期から綾竹台・丸台・角台と言った用具によって製品も作られ組紐製造技術の多様化により帯締め、羽織紐、時計紐など盛んに作られました。昭和の時代に入り需要の拡大と共に内職者も増え、伊賀の地に行くと高台で紐を打つ音が至る所で聞えてくるほど盛況で、嫁入りの荷物としても高台が持ち込まれ、組紐技術を持つ嫁は大層歓迎されたそうです。

昭和12年、日華事変が始まり、14年に原材料の統制配給が行われることとなり、生産機台と技術を保有している業者に原材料を受給する権利が認められました。ここに至って始めて生産者が自家製品を作ることになり、従来の下請け、賃加工の体質から脱却することになりました。昭和17年企業整備令が公布され小組合が結成され業者90名が組合員になりました。戦後は軍隊のパラシュートの紐を解いて材料とするような原料不足の時代もありましたが、昭和29年製紐機が導入され機械による組紐が生産、当時、伊賀特産の和傘

製造業や他業種からの組紐業への転職者が続出して、伊賀組紐の生産高が全国の大半を占めるに至っています。

昭和51年には、「伝統的工芸品」として国指定を受けることになり、名実ともに伊賀組紐の名が高まりました。当時の帯締め総本数は300万本（内手組み紐は120万本）で年間の売上は51億円とも言われています。

近年、和装離れによる需要の減少と職人の高齢化に加え、中国からの低コストによる製品の輸入が増大等の影響で廃業する業者も後を絶たない状況にあります。

このままで推移すると、伊賀組紐も産地としての効力が失われかけませんので、新商品の開発はもとより技術技法の継承が急務と考え、国内の組紐に興味のある方々に教えて日本の伝統である伊賀組紐を伝え残していきたいと日夜奮闘しております。



（写真5）廣澤徳三郎工房



（写真6）初代 廣澤徳三郎

ものづくりの技術で価値を創造する会社へ

有限会社昇苑くみひも 能勢将平（理事）

はじめまして。有限会社昇苑くみひもの能勢と申します。
弊社は1948年、京都・宇治で創業しました。創業当初は手組による組紐を中心に和装小物を製作し、その後まもなく製紐機を導入。現在では約70台の製紐機を有し、手組と機械組の両方の技術を活かしたものづくりを続けています。

長年、手組教室の運営と和装小物の製造を中心に事業を展開してきましたが、1980年代以降、着物市場の縮小が進む中、会社の将来に危機感を抱いた前社長・梶力（かじつとむ）は、「下請けではなく、自分たちのものづくりの技術で価値を創造する会社へ」と大きく舵を切りました。それ以来約30年、自社ブランド商品の開発や全国各地のイベントへの参加を通じて、組紐の魅力を直接お客様へ伝える活動を続けてきました。同時に、さまざまな業界のお客様から寄せられるご相談にひとつひとつ向き合い、和装の枠を超えた新しい組紐の可能性を形にしてきました。現在では、ジュエリーやアクセサリ、お寺や神社の装飾品、アパレル製品、さらには建築分野まで、組紐が活躍する場は大きく広がっています。また、手組教室を通じて伝統技術の継承にも力を注ぎ、これまで日本が大切にしてきた手組の技術をつないでいくことも継続しております。

組紐には、強度や柔軟性といった機能性だけでなく、美しさを生み出す装飾性、そして古くから人々の願いや祈りが込められてきた呪術性・精神性など、多様な魅力があります。さまざまな業種のお客様とお話しする中でも、いずれの要素にも共感をいただく事が多く、新たな商品や表現へとつながる場面を数多く経験してきました。



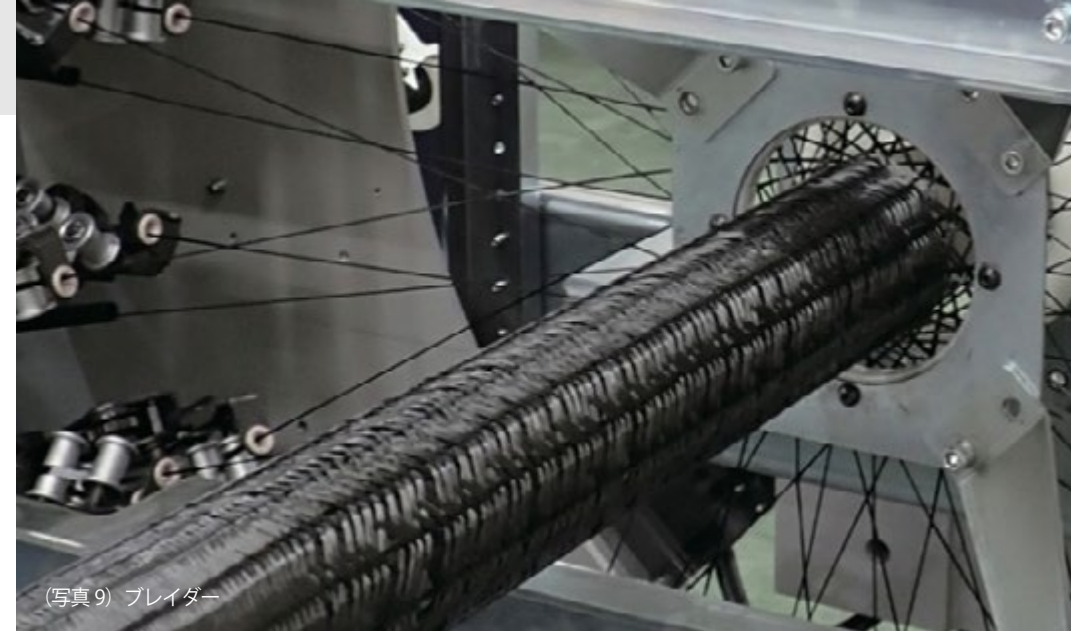
（写真7）小田巻キーホルダー

近年では、アニメやゲームなどのコンテンツとのコラボレーションのご相談も増えています。組紐ならではの繊細な色彩表現や質感は、「推し」の世界観を表現する素材としても高く評価されています。古来、日本では紐の色や組み方、結び方にも意味が込められ、人と人、モノとモノ、みんなの想いを結ぶ存在として受け継がれてきました。そうした伝統技術が、現代の新しい文化や価値観の中でも必要とされていることを、私たちは大変嬉しく感じています。

大量生産や効率化が求められる現代では、組紐に限らず、世界各地で受け継がれてきた技術や文化が失われつつあります。私たちは、先人たちが育んできた組紐という素晴らしい技術を未来へつなぐために、「仕事」として成り立つ道を探し続けたいと考えております。そのために従業員一同新しいチャレンジを恐れず、現代社会の中で新たな価値を生み出し続けたいと考えています。そして、楽しいアイデアを元に多くの皆様とともに組紐という存在が誰かの幸せにつながる未来を築いていきたいと思っています。



（写真8）昇苑くみひも 店内



（写真9）ブレイダー

組紐技術を産業用途に

ムラテックメカトロニクス株式会社 魚住忠司（理事）

ムラテックメカトロニクス株式会社（滋賀県蒲生郡竜王町）では2007年から産業用ロボット（パラレルリンクロボット）の製造販売を行っており、そのパイプ形状をした3種類のアームの製造で組紐の技術が応用されています。
自社製の組機で炭素繊維を用いて鉄の芯材の周囲に組物をくみ上げていきます。その後、炭素繊維組物をプラスチックで固め、芯材を抜き取ることで、パイプ形状のCFRP（炭素繊維強化プラスチック）と呼ばれる高性能材料ができます。炭素繊維は黒色であるため、伝統的な組物のような色彩のデザイン性はありません。しかし、3種類それぞれのアームに求められる性能を最大限に発揮できるように、組物の寸法や組物を構成する炭素繊維の角度が精密に設計されています。

CFRPは鉄、アルミよりも軽量でありながら、高剛性と高強度を兼ね備えています。そのため、高速で動くパラレルリンクロボットの高速・高精度な動作を支える重要部品としてアームに採用されています。

古くから生活の道具としてまた伝統工芸品やアクセサリとして親しまれてきた組物が、炭素繊維などの新しい材料と組物を作製する組機の発展により、CFRPとして活用され新たな価値を生み出しています。さらなる産業用途拡大に向け歴史ある組紐の技術が未来へと繋がっています。

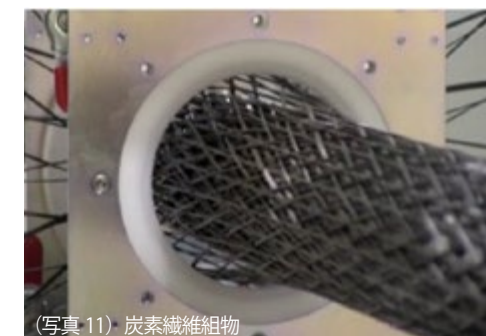
下のQRコードより職場のホームページをご覧ください。



ムラテック
コンポジットセンター



（写真10）パラレルリンクロボット



（写真11）炭素繊維組物



クテ打ち

正確なクテ操作のための3つの工夫

北原文代

クテ打ちは日本の古い組紐技法で、丸台や高台が現れる前に用いられていたとされています。正倉院にある組紐はクテ打ちで組まれたのではないかと、木下雅子先生は言っておられます*。使うのは「クテ」と呼ばれる硬めの紐だけです。一方の端を束ねた組糸を固定し、組糸の反対側の端をクテにつなぎ、クテを両手で持って組糸をぴんと張り、操作します。特別な道具なしに気軽に始められるクテ打ちですが、難点の一つは、クテを操作している間にクテの並びが乱れることです。クテの並びが乱れたままでは、思った通りの模様ができません。そこで、私がしている3つの工夫を紹介します。

クテの材料選び

クテは手のひらで持った時に、クテが重なり合わないで、きちんと一列に並べられる程度の硬さが必要です。私は3から4ミリ程度の太さの綿のワックスコードや、タコ糸を使っています。柔らかすぎると扱いにくいようです。お手製の組紐も良いと思います。クテを作る時に両端を輪にして糸で巻き付けますが、この時に使う糸を色分けしておきます。自分なりに色の順番を決めておいて、何を組むにもこの順番で組んでいきます。

手のひら全体を使って操作する

フィンガーブレイディングは指を使って組みますが、クテ打ちは指をそろえた手のひら全体を使って組みます。外回しの場合は、手に持った外側のクテを人差し指で持ち上げ、反対の手のひら全体でそれを握り取ります。すると、握り取ったクテは自然と手のひらの一番先に落ち着いてくれます。中通しの場合は、外側のクテを人差し指で下に押し下げます。こうすることで手のひら全体で握り取ることが容易になります。指で糸を拾おうとすると、手に持ったクテの並びが乱れてしまいます。

足糸を活用する

クテに足糸を付ける利点の一つは、片手に持つクテを1つのグループとして識別できることです。クテの一つひとつは前述の巻き付けた糸で識別し、片手に持つクテ全体は同じ色の足糸を付けて識別します。操作を1サイクル終わると、片手には同色の足糸が揃うはずで

す。足糸のもう一つの利点は、糸の長さの微調整が簡単にできることです。しばらく組み進むと、並ぶ順番がいつも乱れるクテに気づくことがあります。乱れる原因は、その糸が長すぎるからです。長いために、クテが定位置に落ち着かず、あちこちにさまようのです。そんな時は、足糸で止めている結び目より少し短めにもう一つ結び目を作り、長さを調節します。

終わりに

クテ打ちは人によって様々なやり方があると思います。やりながら出てくる疑問や問題点を一つひとつ自分なりに工夫し、手と頭を使って解決していくのも、クテ打ちの楽しみです。「一見して入り易いが奥は深い」のがクテ打ちの魅力です。

* 木下雅子、「日本組紐古技法の研究」、京都書院、1994年



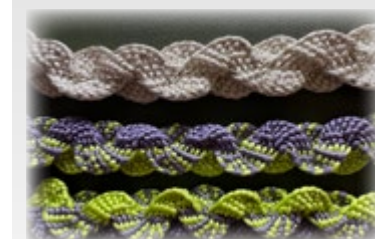
(写真12) 13本亀甲組の初期設定

左手8本に緑の足糸、右手5本に空色の足糸を付けたところ。クテは外側から紺（ワックスコード）、紺、水色、緑、ピンク、ベージュ（ワックスコード）、茶、赤



2025 年度ワークショップ

「カスケイディング（Cascading）」
2025年5月24日（土）多田牧子



安田組を組みながら、ディスクの向きを変えることで立体的に組み上がる組紐です。毛糸を使って組み上げた紐はキーホルダーに、素材を変えたり本数を増やして組み上げた紐はプレスレット、ネックレスに仕上げたりして楽しめます。

「炭素繊維を使った組物」
2025年7月12日（土）仲井朝美・大谷章夫・魚住忠司



前半は、複合材料についてのレクチャーをいただきました。後半は、2種類の炭素繊維を用いて安田組を製作しそれをコースジュ、ペンダントヘッド等々、思い思いに自由な形状を作り、ヒートガンで加熱して固化しました。素敵な作品がたくさん出来上がりました。

「針金で作る花のブローチ」
2025年9月13日（土）青木芙紗江



前半は、ブローチ、アクセサリーの成り立ちや進化など興味深いレクチャーを聞いて、後半は赤、青、金、銀などカラフルな針金を、安打組を基本に道具を使わないで、ブローチや指輪を作成しました。

「Color Change Oimatsu（色変わり老松）」
2025年10月28～29 Adrienne Gaskell



老松のベースの色を変える上級者向けの特殊な技法を学びました。2色の絹糸で1本の組紐の中に違う色の部分を作り、それにレザーやメタリック糸を使うことによって統一感を持たせた素晴らしいネックレスができました。

「クテ打（亀甲組）」
2025年12月13日（土）北原文代



クテ打技法は古代日本で用いられた組紐技法です。今回はクテ打技法を使い「亀甲柄」を組み出しました。初めての方にはクテ打技法の基本を毛糸を使って体験していただきました。

「プライ・スプリット」
2026年2月14日（土）雨森浩子



プライ・スプリットは、インド西北部やパキスタンの放牧民ラバーリーに伝わるテキスタイル技法の一種です。今回は、プライ・スプリットの一方向交差の市松模様を制作しました。ブローチやバックのチャームになる作品ができました。

組紐・組物学会業績賞

■ 趣旨

組紐・組物学会業績賞は、学会の内外を問わず、組紐に関する作品・論文・研究・製品・製造システム・技術継承システム等に関して画期的な貢献をした個人・法人を対象に、当学会がその意義を客観的に評価・表彰することにより、広く社会全体に当学会のプレゼンスを示すことを目的とします。

■ 第 2 回受賞者及び業績

(第 1 回受賞者は 2015 年 木下雅子氏)

- 1) 氏名：ハマナカ株式会社（京都市）
業績：「組ひもディスク」シリーズ製品開発と普及
製品：「組ひもディスク」「組ひもプレート」「オクトプレート」と解説用ブックレット
- 2) 氏名：多田牧子氏
業績：「組ひもディスク」「組ひもプレート」「オクトプレート」の考案と普及

■ 表彰理由

2002 年に発売された「組ひもディスク」は、自習可能な操作と簡便性、低コストであるなどの利点がある。自分のペースで紐が組めること、片手で操作でき、場所を選ばないこと、小さく軽いこと、自習可能な組み方のダイアグラムが付属することなどから広く普及した。

ハマナカ株式会社の担当者と多田牧子氏との一年の共同開発を経て現在の「組ひもディスク」が誕生した。現在では「組ひもディスク」に類似した複数の製品が各国にあるが、製造から販売までの品質管理、さらにサポートまでが一貫してできているのはハマナカ製品のみである。

以上の通り、ハマナカ株式会社の「組ひもディスク」製品シリーズは、20 年にわたる商品開発・製品化と販売を継続する中で、我が国の組紐普及に大きく貢献し、さらにそれを全世界に紹介する上でも特筆すべき業績を示している。

多田牧子氏の本製品考案により、組紐が手軽にできるようになり、小さな子供達も組紐が楽しめ、夏休み子供教室など、多くのワークショップで利用されている。また、国内にとどまらず、海外でも利用され普及している。組紐がより身近なものとなった。

上記のことから、ハマナカ株式会社、多田牧子氏に組紐・組物学会業績賞が贈呈されました。

「あをによし賞」受賞祝賀会

2024 年に第 18 回「読売あをによし賞」を受賞された多田牧子先生の栄誉を祝し、組紐学会では受賞祝賀会を開催いたしました。

祝賀会は 2025 年 5 月 24 日、ワークショップに引き続き京都工芸繊維大学で行われ、当日は 31 名の会員が参加し、和やかで華やいだ雰囲気の中、先生のご功績を称えました。

多田先生の長年にわたる研究活動は、組紐文化の学術的深化と普及に大きく寄与してこられたものです。今回の受賞は、その積み重ねられた成果が広く認められた証であり、学会としても大きな喜びとなりました。

読売あをによし賞

かけがえのない文化遺産を守り伝える活動に取り組んでいる個人・団体を顕彰する賞です。この賞を通じて、文化遺産を未来につなぐ意義を広く伝えています。多田牧子先生は聖徳太子が首にかけたと伝わるお守りのひもや、国宝「鳥獣戯画」の巻物に巻き付けるひもなど、貴重な文化財にかかわる数多くの品を復元・監修してきた研究活動が評価され、文化財の「保存・修復」部門で受賞されました。

主催：読売新聞社

特別協力：文化財保存修復学会

後援：文化庁、大阪府教育委員会、国立文化財機構、文化財保護・芸術研究助成財団、読売テレビ

(出典：https://awoniyoshi.yomiuri.co.jp/)

組物検定試験

京都・伊賀

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が 2010 年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。1 級～3 級の試験で作品の提出がある場合は、過去 2 年以内に制作したものとします。

■ 検定基準と範囲

■ 5 級：丸台と角台の 8 玉、16 玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■ 4 級：丸台 16 玉、24 玉。

組物について専門的技能と知識があるか。

■ 3 級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的技能と知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

提出作品：綾竹台作品 2 本以上

■ 2 級：クテ打中級、綾竹台、高台 1 枚物など。

組物について専門的技能と知識を持ち、指導者の補佐ができるか。なお 2 級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

提出作品：高台 1 枚物作品 2 本以上

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■ 1 級：高台 2 枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的技能と知識を持ち、指導する実力があるか。なお 1 級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

提出作品：高台 2 枚物作品 2 本以上

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

1 級合格者は、組紐指導者として活躍できるよう、個別の作品展の開催、「組紐・組物学会認定講師」の名刺（学会ロゴ入り）の制作などを学会が支援します。

■ 合否判定

筆記試験は獲得点数により判定します。合格ラインは年度により変化しますが、5 級が 75 点、4～2 級が 80 点、1 級は 85 点前後です。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さに組まれているか、動作と出来映えの 3 つの観点から A, B, C の 3 段階評価とし、A, B が合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

■ 受験申込要領

受験申し込みは、住所、氏名、電話番号、メールアドレスを Fax、電子メールまたは葉書で 11 月 20 日までに学会事務局までお送り下さい。受験料は 8000 円（絹糸の材料費を含む）です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。なるべく早めに事務局にご連絡下さい。細かい注意点がございます。組紐・組物学会事務局
京都工芸繊維大学大学院 大谷研究室 内
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
Tel/Fax: (075)724-7905、E-mail: miyakoinoda1@gmail.com

■ 検定テキスト

組紐・組物学会監修の「組紐と組物一歴史・用途・制作方法・原材料」（60P, 2015）は現在品切中ですが、電子書籍版（Kindle・iBooks）をタブレットなどで見ることが出来ます。

■ 匠検定

筆記試験のない実技のみの試験として「匠検定」があります。実技試験は 1 級より難しく、高台 2 枚物の技能を伊賀組紐の基準によって検定します。日時等は伊賀廣澤工房にお問い合わせ下さい。



2026 年 5 月 23 日 業績賞授与



2025 年 5 月 24 日 あをによし賞受賞祝賀会



2025 年 12 月 実技試験 京都工芸繊維大学

第15回組物検定 京都

第15回組紐検定は、2026年12月12日（土）に京都工芸繊維大学にて行われる予定です。また、1、2級高台試験は、11月に伊賀廣澤工房の予定です。

第14回の組紐検定は、2025年12月13日に京都工芸繊維大学で開催され4級1名が合格しました。

1級合格者は、「組紐・組物学会認定講師」となり、組紐指導者として活躍しています。

認定証の授与の他、学会の支援による個展の開催、名刺（学会ロゴ入り）を学会が制作いたします。

認定講師は現在、小嶋博子、西幾代、丸山文乃、岡本睦子、清澤澄江、三上扶実子、銭谷信子、吉田有夫子、鈴置有子、木村章子（敬称略）の10名です。

従来、個展の際に個別の作品図録も制作していましたが、昨今の事情に鑑み、図録の印刷内容と同じ情報（各認定講師のプロフィールと作品写真）が学会のWeb上で公開されています。QRコードからご覧ください。

<http://www.kumihimo-society.org/instructors.html>



ワークショップ予定 2026-2027

■第1回ワークショップ（定例総会・基調講演を含む）
5月23日（土）10：00～16：00 丸山文乃

■第2回ワークショップ（日本女子大）
7月11日（土）10：00～16：00 多田牧子

■第3回ワークショップ（日本女子大）
9月12日（土）10：00～16：00 西山千真

■第4回ワークショップ（京都工芸繊維大学）
10月26日（月）～27日（火）10：00～16：00
エイドリアン・ガスケル

■第5回ワークショップ（京都工芸繊維大学）
12月12日（土）10：00～16：00 三上扶実子

■第6回ワークショップ（日本女子大学）
2027年2月13日（土）10：00～16：00 吉田有夫子



京都工芸繊維大学でのワークショップ 2025.12.13

役員

■会長

濱中知子：ハマナカ（株）

■副会長

西 幾代：組紐研究家

松梨久仁子：日本女子大学

■理 事

魚住忠司：ムラテックメカトロニクス（株）

大谷章夫：京都工芸繊維大学

北村雅之：北陸ファイバークラス（株）

清澤澄江：組紐研究家

倉谷泰成：（株）カドコーポレーション

寺本 靖：（有）寺本文化財工芸社

仲井朝美：岐阜大学

西本博之：大阪産業大学

能勢将平：（有）昇苑くみひも

濱田泰以：（株）伝統みらい

圓井 良：圓井繊維機械（株）

丸山文乃：組紐研究家

吉田有夫子：組紐研究家

渡辺一生：渡敬（株）

廣澤浩一：廣澤徳三郎工房

多田牧子：組紐研究家

顧問

事務局

猪田宮子：京都工芸繊維大学

組紐・組物学会
The Kumihimo Society

組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院 大谷研究室内

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel: (075)724-7905 E-mail: miyakoinoda1@gmail.com

www.kumihimo-society.org

ご入会、ワークショップ、組紐検定、シンポジウム講演、作品・製品展参加のお申し込みはこちらをお願いします。

組紐・組物学会 年会費改定のお知らせ

2026年度より、メール会員の年会費4,000円から5,000円とさせていただきます。郵送会員様につきましては、6,000円となります。今後、郵送不要・メールでの連絡を希望という会員様は、その旨、事務局へメールアドレスを御連絡下さい。